

巻頭言

今日は3月1日です。この冬の静岡は特に良い天気の日が多かったように思われ、静岡市附近の低地には全く積雪を見なかったのみでなく、例年ならば冬中1-2回は日本平や大崩の山々に暮雪を眺めるのであるが、今冬はそれすらも観察しなかったように思われる。昨日は有力な低気圧が伊豆半島沖を通過して今日はすっかり春らしいおだやかな空気になった。

ここに本学部で4年間所謂寒雪の功を積まれ特に昨春以来1年間地学教室で卒業研究に努力された新卒業生9名の方々の研究成果が"地学しずは下7号"として発刊されることはまことに嬉しい。地学教室も逐年物的内容が整備されて、地質鉱物関係は勿論、気象・天文関係に至るまで充実してきたので研究成果も年を追うて立派になってきた。11名の新卒業生、修了生諸君にとっては本誌に載せられた研究は生涯の一つの記念であるが、どうか社会に出てからも、苦しいはつらつたる気分で地学関係の研究を続けて行って欲しい。

諸君の前途の多幸を祈るとともに"地学しずは下"の発展を祝して巻頭を汚す次第です

1955年3月1日 地学教室にて

佐々倉敏三